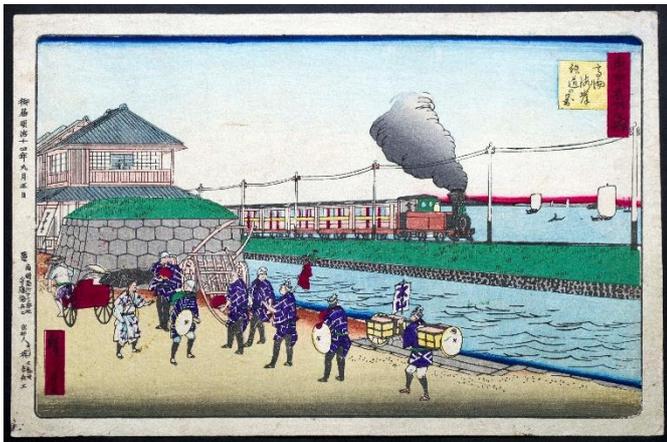


「高輪築堤」について

JR東日本の高輪ゲートウェイ駅前開発により、明治に作られた築堤遺構が発掘されました。大正期の港南地区埋め立てで取り壊されたと考えられていたようですが、今回発見され、公開されました。



「神奈川県郷土資料アーカイブ」より
二代歌川広重『東京名所之内 高輪海岸鉄道の図』
1881年発行

左の資料の陸上にある石垣は、高輪大木戸です。よって人々が往来している道は東海道の、現在の第1京浜です。奥の海上に鉄道が通っていることが確認できます。これが1872年に横浜と新橋を結んで建設された日本最初の鉄道です。なぜ海上を通っているかという、当時の兵部省が国防上の理由から土地の利用を認めず、やむを得ず埋め立てを行ったためこのような形になったそうです。品川駅から本芝までの約2.7kmを海上に築堤を築き、その上に線路を通したのです。



○これは海側の築堤です。波の浸食をおさえるためになだらかな角度が付いています。



○こちらは陸側の築堤です。波の影響がないので角度が急です。ビル群の湾曲は当時の海岸線と同じだそうです。



この資料は築堤付近で出土したものです。汽車の乗っていた人々が購入し、車内で楽しんだお茶の急須です。小さな茶碗とセットで販売されたようです。飲み終わったあと捨ててしまったものが発見されました。

築堤には線路の下をくぐる水路があったことが分かっています。これは海岸にいる漁師らが船を出せるようにするための工夫です。その跡が下の写真から見取ることができます。品川～本芝間に4つの橋があったようです。

